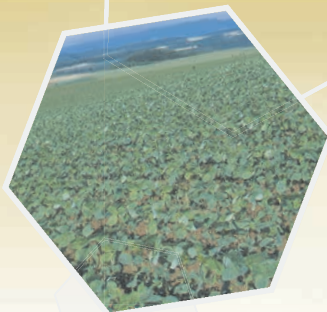




だいず篇



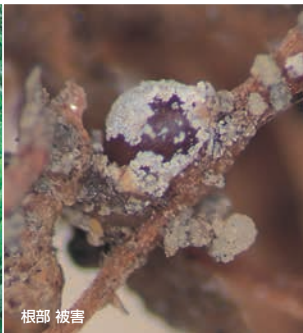
ダイズシストセンチュウ

ハリセンチュウ目 ヘテロデラ科

Heterodera glycines Ichinohe Yellow potato cyst nematode



地上部 被害



根部 被害

【加害作物】

だいず、あずき、いんげん等マメ科

全国に分布する。幼虫が根に入り成長するにつれ、葉の黄化、生育抑制を引き起こし、下葉から枯れ上がり、早期に枯死する。このため減収する。また、本種に寄生されると根粒菌がほとんどつかなくなる。さらに、あずきでは小豆落葉病を引き起こすこともある。

ダイズアブラムシ

ヨコバイ目 アブラムシ科

Aphis glycines Matsumura Soybean aphid



【加害作物】

だいず

全国に分布する。ジャガイモヒゲナガアブラムシとともに、だいずの主要アブラムシである。被害はともに、吸汁害そしてダイズモザイク病やダイズ萎縮病などウイルス病の媒介である。ウイルス病の媒介は、例え少発生でも起こりうるので、発生初期のうちに防除することが大切である。吸汁害は、葉、茎および莢を群集して加害する。ジャガイモヒゲナガアブラムシが主に葉を加害するのは異なっている。本種は特に新葉や若葉を好み、葉はひどく縮れあがる。また、莢に寄生された場合は、生育肥大が抑制され減収に至る。

カメムシ類

ミナミアオカメムシ カメムシ目 カメムシ科

Nezara viridula (Linnaeus) Southern green stink bug

【加害作物】 マメ科、イネ科、果菜類、果樹等

イチモンジカメムシ カメムシ目 カメムシ科

Piezodorus hybneri (Gmelin) Unibanded stink bug

【加害作物】 マメ科

ホソヘリカメムシ カメムシ目 ホソヘリカメムシ科

Riptortus clavatus (Thunberg) Bean bug

【加害作物】 マメ科、イネ科

上記のほか、アオクサカメムシをはじめ多種類のカメムシがだいずを加害する。茎葉を吸汁するうちはよほど増えない限り大きな被害とならない。しかし莢を吸汁すると、実の奇形、さらには莢の落下をひきおこし、深刻な収量低下をもたらす。幼虫の移動量はたいしたことがないので、防除をすれば退治できる。一方成虫は活発に飛翔し、圃場内に次々と侵入してくる。莢ができはじめからは発生量によく注意し、成虫の侵入が多い場合は、数回の防除が必要である。



ミナミアオカメムシ 幼虫



イチモンジカメムシ 幼虫



イチモンジカメムシ 卵と幼虫



ホソヘリカメムシ 成虫



だいずの被害

マメシンクイガ

チョウ目 ハマキガ科

Leguminivora glycinivorella (Matsumura) Soybean pod borer



【加害作物】

だいず

全国に分布するが、北海道と東北で発生が多い。後述のシロイチモジマダラメイガと同様に子実を食害する。莢は食害しない。一方シロイチモジマダラメイガと異なり、本種は通常、1つの莢だけで老齢幼虫まで生育する。その後9月中下旬に地面に落ち、土中で蛹化、越冬する。このため収穫後の耕起は、翌年の発生を抑制する。薬剤散布は莢伸長終期から子実肥大初期に行う。

サヤムシガ類

チョウ目 ハマキガ科

Matsumuraeses spp.



【加害作物】

マメ科

ダイズサヤムシガ・マメヒメサヤムシガがいるが、極めて似ており、圃場で種を見きわめるのは困難である。莢の無い時期は葉と茎をつづり合わせた巣を作り食害する。茎の内部に食入することもある。莢のある時期は莢同士または莢と葉をつづり合わせて食害する。農薬に対する抵抗性事例の報告はない。

シロイチモジマダラメイガ

チョウ目 メイガ科

Etiella zinckenella (Treitschke) Limabean pod borer



成虫



幼虫

【加害作物】

マメ科

全国に分布するが、主に関東以西で発生する。孵化後数時間以内に莢の中に侵入し、子実を食害する。莢は食害しない。1つの莢内の子実を食い尽くす前に、他の莢から莢へと移動していく。老齢幼虫で越冬する。防除は産卵前後の莢伸長期から子実肥大期に行う。ただし、年3~4回発生するため、産卵時期がばらつくことがあり、薬剤散布を数回に分けることもある。

ツメクサガ

チョウ目 ヤガ科

Heliothis maritima adauca Butler Flax budworm



幼虫

【加害作物】

マメ科、ナス科、てんさい

全国に分布する。年2～4回発生する。成虫はアカツメクサ等の蜜を吸う。幼虫は葉と子実の両方を食害する。若齢幼虫は葉をつづり、表皮を残して食害する。3齢を過ぎると、葉の表面に出て、丸く穴を空けていく。子実肥大期の始めに薬剤散布し、幼虫の食入を防除する。

ハスモンヨトウ

チョウ目 ヤガ科

Spodoptera litura (Fabricius) Common cutworm



卵塊とふ化幼虫



左:中齢幼虫 右:老齢幼虫

【加害作物】

イネ科以外のほとんどの作物

南方系の害虫であるので、かなり温暖地でないと野外では越冬できない。しかし、成虫の飛翔距離が長いこと、越冬できる加温施設が増えたこと、また近年の温暖化を原因として、発生地や発生量が北上、増加している。以前は関東でも発生は希だったが、最近では北海道でも被害が発生している。卵は数百個ものかたまり(卵塊)で葉の裏に産み付けられ、薄茶色の鱗毛に覆われている。誕生した若齢幼虫は集団で食害、葉が表皮だけ残り白くなって目立つようになる。これは「白変葉」とよばれる。農薬に対する抵抗性がつきやすい害虫である。さらに、老齢幼虫に近づくにつれますますます効きにくくなる。したがって、この白変葉が出始めた頃を逃さず防除することが重要である。

コガネムシ類

ヒメコガネ コウチュウ目 コガネムシ科
Anomala rufocuprea Motschulsky Soybean beetle

マメコガネ コウチュウ目 コガネムシ科
Popillia japonica Newman Japanese beetle



ヒメコガネ 成虫



マメコガネ 成虫

【加害作物】

マメ科作物、野菜、花卉、果樹、たばこ等広範な作物

いずれも成虫は葉を食害する。網目状に葉脈を残す特徴的な食痕となる。集合性があり何頭も集まって加害することがある。幼虫は地下部を食害するが、あまり大きな問題とはならない。農業に対する抵抗性事例は報告されておらず、防除は容易である。多く集まっているところを見つけたら、スポット的に散布すればよい。

フタスジヒメハムシ

コウチュウ目 ハムシ科

Medythia nigrobilineata (Motschulsky) Two-striped leaf beetle



成虫



若齢幼虫



だいずの被害

【加害作物】

だいず、あずき、いんげん

全国に分布する。成虫は葉、茎、莢を食害する。幼苗期以外、茎葉の食害はほとんど問題にならない。しかし、莢を食害されると、子実に黒斑がつき、品質低下を招く。また、幼虫は根粒に食入する。このため多発生の場合は生育不良をおこす。成虫は畑や畦畔の落葉や草かげで越冬する。したがって、収穫後に落葉の撤去や耕起を行うと、次年度の発生を抑えることができる。

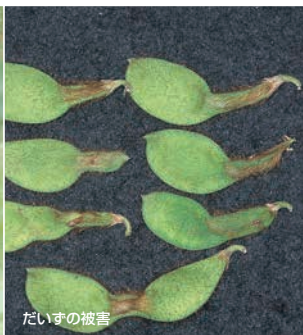
ダイズサヤタマバエ

ハエ目 タマバエ科

Asphondylia yushimai Yukawa et Uechi Soybean pod gall midge



中齢幼虫



だいずの被害

【加害作物】

だいず

青森県以南に分布する。落花直後の大豆莢内に1個ずつ産卵する。幼虫は子実周辺に菌を繁殖させ、これを食べて成長する。1つの莢で蛹にまで成長する。羽化後は、蛹の抜け殻を莢の外に残していく。被害として、莢がひょうたん型等の奇形莢になり、減収に至る。防除は、開花期後期から莢伸長初期に、1~2回薬剤散布する。

2018年9月 第3刷発行



非売品・無断転載を禁ず